

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

はじめに

全国学力・学習状況調査は、中学校3年生を対象に行われます。今年度は、4月15日(火)に「生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査」、理科の「教科に関する調査」を、17日(木)に「国語・数学の調査」を実施しました。この調査の目的は、結果をもとに生徒の学力や学習状況を分析・把握し、各教科における成果や課題、生活状況の実態等を明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善に役立てることです。本校では、各教科担当を中心に分析し、まとめましたので、HP等を通じて保護者・地域の皆様にも本校その概要をお知らせしていきたいと思ひます。

学力調査の概要

本校の平均正答率は、国語は全国(公立)及び山梨県よりも上回っていましたが、数学は下回り、理科はほぼ同等という結果でした。この学力・学習状況調査を基に、生徒一人一人の課題を把握し、指導に生かしていきたいと思ひます。(自校の数値は示しません)

山梨県・全国(公立)の平均正答率			
	国語	数学	理科(IRT 377集計値)
山梨県	53	45	503
全 国	54.3	48.3	503

中学校学習指導要領では、それぞれ教科等の目標や内容について、生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」という3つの柱に基づいて整理されており、これら3つの柱は相互に関連付けながら育成されるものという考えに立っています。国語・数学・理科のそれぞれの教科について「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の2つの評価の観点に基づき全国学力・学習状況調査の問題は出題されています。

各教科の成果と課題(○:成果 △:課題)

【国語】

- 目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる
- 書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開をすることができる
- 自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができる
- △文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができる
- △資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる
- △読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができる

△読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができる

●今後の取り組み

自分の考えの「根拠」を示せるようになるために、まずは、自分の主張が必要であることを意識させたい。その上で、他者(読み手)に納得してもらうために、その主張を裏付ける根拠を示すことの大切さを学ぶ。根拠とは、述べられる理由に対して客観性を持たせるための事実の集まり(データ)のこと。ただ単に理由を述べるだけでは人は納得しないことや「理由は根拠と主張をつなぐもの」という意識を強めたい。自分の生活経験を基にした理由が自分の考えの主張の根拠となるという経験をさせていきたい。

進んで文章を書き、自分の考えを広げたり深めたりしようとする態度を養うために、意見文の下書きを推敲したり、交流したりする時間を設ける。

<具体的に>

- 語彙を増やす、反応する、自分の意見を持つために、
- ①授業の中に、登場人物の行動や会話の根拠や一つ一つの言葉の意味を考える、文章や図や絵に表す、友達の意見や考えを基に自分の考えを振り返る場面を取り入れる。
- ②文章を読み、段落の中心であると感じた部分にサイドラインを引かせる。
- ③問題提起と問題解決の文を探し、段落の要点であることの根拠を述べる。
- ④先の展開や結末を予想し、様々な情報や伏線を整理しながら読む。
- ⑤登場人物の置かれた立場や思いや、友達の意見に共感したり寄り添ったりしてコミュニケーション能力や共感力を身に付ける。
- ⑥辞書を使って語句の意味調べを行うこと、便覧や資料集の活用などを心がける。
- ⑦頑張り点検表を利用して一人一人の言葉を受け取り、個に対応する。(一行感想欄には、質問や自分の考えも書かれるようになってきている。)
- ⑧「書く」言語活動を多く取り入れる。
漢字は、話や文章の中において文脈に即した意味や用法を理解しながら、読んだり書いたりさせる。
毎時間5問テストを継続実施する。

【数学】

- 事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができる
- 必ず起こる事柄の確率について理解している
- 証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだすことができる
- △式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができる



- △素数の意味を理解している
- △ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができる
- △事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる

●今後の取組

「子供主体の授業づくり」の実践を通して次に示すことを留意し取り組んでいく。

- ①子供が学習課題を選択・決定する場面を設定する。
具体案：論証問題におけるオープンな課題の設定
「△ABCと△DEFにおいて、○○という条件のとき、等しい関係を見つけなさい。」
・各自が見つけた関係について証明する。
 - ②子供が学び方を選択・決定する場面を設定する。
ICT機器の活用 ・「GeoGebra(ジオジブラ)」の活用したシミュレーションを行う。
デジタル教科書・シミュレーションソフトの活用
 - ③子供が自らの学習を振り返る場面を設定する。
振り返りシート、ワークシートを有効活用する。
条件を変えて問題づくりを行う。
- ◇「定義」や「用語」の確実な指導(習得)
既習事項：上の学年においての繰り返しの指導
◇[言葉]+[文字]による説明 テロップ世代への対応策
【理科】
- 科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できる
 - 地域の言い伝えを科学的に探究する学習場面において、大地の変化と、地層の様子やその構成物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を推定できる
 - 加熱を伴う実験における実験器具の操作等に関する技能が身に付いている
 - △身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できる
 - △露頭のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できる
 - △【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できる
 - △大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現できる
 - △課題ではあるが全国に比べてよい。
化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができる

●今後の取組

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実践していくことで、既習事項や日常生活から得た知識を活用する力が養われていくと考える。そのためには、事象から新たに生じた疑問を記入することや、その疑

問を解決するための課題を設定する取組を取り入れていく必要がある。この活動を充実させるためには、家庭学習と連動させる必要がある。授業者は子供たちが主体的に学びに迎えるような課題設定を行い、意欲的に学ぶ姿勢を育んでいきたい。家庭学習の中で自分の考えを導き、授業の中で仲間とともに考えを共有し深めていくことで、今回の調査結果の分析から見えてきた本校の課題の解決に繋がっていくと考える。

学習状況調査(質問紙調査)の概要

- ：肯定的な回答が、全国平均を上回っている設問
- △：肯定的な回答が、全国平均を下回っている設問
- ※概ね上回っているか同等のものが多かった。

[学校や家庭での生活について]

- 毎日同じくらいの時間に寝ている
- 将来の夢や目標を持っている
- 学校の授業以外で読書をする時間の割合が多い
- 読書は好き、家にある本の割合が多い
- 授業以外に普段1日当たりの読書時間が多い
- △友達関係に満足している

[1.2年で受けた授業について]

- 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた
- 生活をより良くするために学活で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている
- 学級活動における学級での話し合いを生かして、今自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる
- △普段の生活の中で幸せな気持ちになることがある
- △ICT機器の使用頻度が多い
- [現在、受けている授業等について]
- インターネットを使って情報収集できる
- △PC等ICT器機を使って情報を整理する
- △国語の勉強は得意であり、授業内容はよく分かる
- 国語の授業で先生は良いところやできるようになったところを伝えてくれる。学習が上手くできないところはどこかを伝え、できるための方策を教えてくれる。

- △数学・理科の勉強は得意であり好きである。内容がよく分かる。
- 数学・理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う。
- △数学・理科を学習したことで普段の生活の中で活用できている
- △自然の中や日常生活、理科の授業で、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしている
- 観察や実験をよく行っている
- △観察や実験を通して学びが深まった

【対応】学級活動や授業においては前向きに日々熱心に取り組んでいる回答がみられた。自己肯定感が若干低い傾向がある。数学・理科についてその有用性は認識していても苦手意識を持っている。身近な生活の中で、興味を持つことができるよう授業で具体例を挙げて学習の意義を実感させ、自信を持たせていきたい。

